

リレーコラム ～森を育てる会の活動を通して～

柏陵高校生物部が森会に参加するようになって3年が経ちました。柏陵高校に赴任して以来生物部の指導に携わってきましたが、机上や実験室の中だけで語り合う生徒の姿に、少し違和感がありました。自然観察センターの小川さんから森会のお誘いの電話がかかってきたのは、まさにそんな時でした。

あれから3年、生徒たちは森会で本当に多くのことを学んでいます。実験ばかりで、外に出て樹に触れる機会も少なかった生徒たちが、のこぎりで勢いよく樹を切る姿に、頼もしさを感じることもありました。数年後、数十年後どんな森にしたいのかを見据えながら活動する事、安全第一の考え方、道具を大事にすること、そして何よりも自分たちがこの活動を楽しむこと。これらは学校の机の上では学べないことばかりです。

さらに、こんなこともありました。初参加の日、生徒たちはどんな服装で参加すればよいのか分からずに、全員が学校の体操服で来ていました。2回目の活動日も同じ。私にはそれが“壁”をつくっているように見えました。皆お揃いの体操服は一体感や安心感があるのですが、それが返って“高校生”であることを殊更に主張し、他者を受け入れにくくしているのかもしれないと感じました。生徒たちに次回からは体操服以外で来なさいと話す、少し難しい顔をしていましたが、お揃いの体操服を脱いだ彼らはそれぞれが本当に個性を發揮してくれ、私も一個人として彼らと向き合えるような気がしました。彼らを“高校生”として一括りにし、均一性を求めていたのは私なのかもしれないということを、気づかせてもらった気がします。

さて、ここまでもっともらしいことを書いてきましたが、本心では、生物部で一番森会の活動を楽しんでいるのは私だ！と思っています。アカマツ林にマツタケが生えるまでがんばりたいと思います！！

福岡県立柏陵高等学校生物部

顧問 新地 祐子



次回のリレーコラムは、榊さんお願いします。